

第13回男女共同参画シンポジウム報告

“あなたがリーダーとなるために”，第1回「女性化学者奨励賞」受賞者紹介

本シンポジウムが目指すもの

第93春季年会の第3日（3月24日）立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、男女共同参画推進委員会主催の第13回シンポジウムが開催された。本シンポジウムでは、若手研究者がリーダー（PI）となっていくために何を心がけたらよいかという主題で基調講演・パネル討論が行われた。また、冒頭に第1回日本化学会女性化学者奨励賞受賞者の紹介とスピーチがあった。

シンポジウムの内容紹介

玉尾皓平日本化学会会長が、開催挨拶で欧米の化学会会長は女性が多いことを紹介され、男女共同参画の重要性を強調された。有本建男政策研究大学院大学教授は、女性がリーダーとなることで日本化学会の多様性と質の向上を期待するという挨拶をされた。

本委員会の佐々木政子委員長より、シンポジウムの趣旨説明と第1回女性化学者奨励賞受賞者の紹介があり、続いて受賞者2人によるスピーチが行われた。（独）物質・材料研究機構主幹研究員の小林由佳氏から「有機塩橋物質の電子機能に関する研究」により受賞したこと、大学院で理論・実験の両面で素養を磨き、東大、早大、物材機構と研究場所を変えていながら子育ても行い、新しい分野を開拓したことが紹介された。分子科学研究所准教授の唯美津木氏からは、「固体表面での分子レベル触媒構造の構築とその機

能性の可視化」について受賞し、触媒反応に関する研究に従事し、女性研究者の育成にも努めていることが紹介された。2人のますますの活躍が期待される。

黒田玲子東京理科大学教授より、「もっと意思決定に参画を」と題して基調講演が行われた。欧米の学長には女性が多いことが紹介された。指導者にはビジョン、決断力、リーダーシップが必要で、人材を見だし育てる人が必要であるとの考えを示された。

帝人株式会社 of 神山三枝博士より、「2つの視点」と題して基調講演が行われた。企業における女性の活用、活躍する際に心掛けることについて紹介があった。ことづくりとものづくりという2つの視点で考え、ことづくりは女性が得意な領域だと示唆された。

阿波賀邦夫名古屋大学教授より、「女性博士リーダーの育成：グリーン自然科学国際研究教育プログラムの取り組み」と題して基調講演があった。博士課程学生がリーダーとして成長するための支援を行うプログラムの中で、特に女子学生の支援に関する部分について紹介された。キャリア指導の一環としてセミナー合宿を行うことなどで、成果が表れていることが報告された。

休憩後、筆者の司会でパネルディスカッションが行われた。パネラーとして、神山氏、阿波賀氏、及び若手研究者（大阪府立大学助教 児島千恵氏、名古屋大学博士後期課程 松岡亜季氏、（独）産業技術総合研究所主任研究員 藤原直子氏）



女性化学者奨励賞受賞者（左から2人目、3人目）とシンポジウムの様子

が参加した。若手3氏の自己紹介に引き続き、討論に入った。「リーダーになるためには、理念、総合性、協調性、粘り強さ、多様性が必要。外に出て異分野の人との交流が大事。困難を乗り越えるには、ほかからの助力が必要だが、努力する人には手が差し伸べられる」などの意見が出された。個人でできること、国レベルの課題などが議論された。また、諸外国と比べて博士後期課程に進学する女子学生が少ないことが指摘され、国の施策に関する課題も議論された。

閉会の辞として理事の栗原和枝東北大学教授より日本を支えるのは科学技術であり、好きな研究を極めリーダーになっていただきたいとの挨拶があった。

今後の展開

今回のシンポジウムでは立ち見が出るほどの多くの参加者を集め、この課題に関心を持つ研究者が多いことを実感した。男女共同参画の発展を目指して、今後も積極的な活動を続けていきたい。

〔シンポジウム実行委員長 竹内孝江（奈良女子大学）〕

©2013 The Chemical Society of Japan